

使った水・下水が川に流せるようになるまで

げすいかん じょう とお
下水管やポンプ場を^通って、浄化センターに運びこまれた下水は、いくつもの施設^{しせつ}を通り抜ける^ぬあいだに、しだいにきれいな水に生まれ変わってゆきます。

ちんさち (沈砂池)



じどうじょじんき ないぶ
(自動除塵機 内部)



りゅうにゅうすい
(流入水)

浄化センターに運ばれた下水は、まず、沈砂池^{ちんさち}とよばれる池にはいります。下水のなかに^ふくまれている、おおきなゴミや、下水管^{げすいかん}を流れてくるあいだにはいりこんだ、小石や砂は、この沈砂池^{ちんさち}でとりのぞかれます。自動除塵機^{じどうじょじんき}とは、下水のなかのおおきなゴミを自動ですき取る機械です。

さいしょちん
(最初沈でん池)



さいしょちん ち えつりゅうぶ
(最初沈でん池 越流部)



さいしょちん ち
(最初沈でん池のうわ水)

おおきなゴミや小石、砂を取りのぞいた下水は、さいしょちん ち
最初沈でん池にはいります。
この池をゆっくりと流れていくあいだに、大きな汚れは、底に沈んでゆきます。

はんのう (反応タンク)



はんのう
(反応タンク 内部)



こんごうすい
(混浴水)

さいしよちん ち
最初沈でん池のうわ水は、はんのう
反応タンクにはいります。はんのう
反応タンクの中では、
かっせいおでい げんせいどうぶつ びせいぶつ
下水と活性汚泥（バクテリアや原生動物のような微生物の集まり）をまぜて、
空気をふきこみます。すると、かっせいおでい
活性汚泥と下水はよく混じりあいます。かっせいおでい
活性汚泥は、ふきこまれた空気中のさんそ
酸素の助けをかりて、下水にふくまれているゆうきぶつ
有機物をさんか むきぶつ
酸化し無機物に変えていきます。（汚水の原因となっているのは、ゆうきぶつ
有機物です。）これによって、下水はどんどんきれいになってゆきます。一方、びせいぶつ
微生物
(かっせいおでい ゆうきぶつ むきぶつ
活性汚泥)は、有機物が、無機物に変わるあいだに生じるエネルギーによっ
て、どんどんふえてゆき、時間がたつにしたがって、しだいに汚れのかたまり
となり、重くなり、しず
沈みやすくなります。

(最終沈でん池^ち)



さいしゅうちん^ち えつりゅうぶ
(最終沈でん池 越流部)



かせいおでい
(活性汚泥が沈んでいる様子)

はんのう
反応タンクで、重たいかたまりとなった汚れは、この池で、^{しず}沈められます。
ここまでの^{ゆうきぶつ}有機物の約90パーセントが取りのぞかれ、下水はきれいになります。

えんそこんわち
(塩素混和池)



やくひんちゅうにゅうせつ
(薬品注入施設)



しよりすい
(処理水)

さいしゅうちん ち
最終沈でん池の、うわずみ水は、見た目にはきれいですが、だいちょうきん さいきん
大腸菌などの細菌
がふくまれていますので、ここでしょうどく めっきん
消毒・滅菌してから、やましながわ ほうりゅう
山科川に放流します。
ひがしうじじょうか
東宇治浄化センターでは、じあえんそさん
次亜塩素酸ナトリウムというやくひん
薬品を使ってしょうどく
消毒して
います。



やましながわほうりゅう
(山科川放流ゲート)